



## みんなで考えつくる“里山” 綾町の事例を発表

イオン環境財団主催の「第2回イオン SATOYAMAフォーラム」は2月18日、東京都渋谷区の国連大学で開催されました。綾町の事例発表やパネルディスカッションをオンライン視聴も含め約500人が聴講しました。

事例発表では、長年ユネスコエコパーク推進に取り組んでいる綾町BR推進支援員の河野耕三さんが、綾町イオンの森における里山再生の取り組みから中学生の環境学習、保全や利活用の展望までを発表しました。

パネルディスカッションにはユネスコエコパーク推進室長の倉前省吾がパネリストとして登壇し、綾町の自然共生型のまちづくりの歩みや自然生態系農業などの具体的な取り組みを紹介。さらに、イオンモール宮崎に設置されている綾町イオンの森大型パネルなどについてPRしました。

そのほか、綾町でニホンミツバチの調査研究を行っている宮崎大学農学部の中野靖教授、綾町果樹振興協議会の児玉隆一会長も登壇し、割付地区の日向夏みかん畑とニホンミツバチとの関係や、昨年登録された環境省の「自然共生サイ

ト」など幅広い視点から取り組み事例を紹介しました。

フォーラムでは、京都大学、東京大学などの里山に関する研究・実践活動紹介や意見交換もあり、ユネスコエコパーク推進係長の河野円樹が学生や若手研究者とともに里山再生や利活用について議論する場面も。持続可能なまちづくりのモデル地域を目指す綾町の産学官民協働の取り組みには多くの関係者から関心が寄せられ、具体的な取り組み内容や多様な活動主体の連携の在り方などに対する質問が相次ぎました。

企業や大学との連携は、綾町の持続的な取り組みを進めていくうえで重要な位置づけになっています。綾ユネスコエコパークとして引き続き、多様な連携による取り組み推進を目指し、活動していきたいと考えています。

